

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学校法人嶺谷学園ハッピーテラスキッズ大津ルーム ぎんなんラボ		
○保護者評価実施期間	2024/12/2		2024/12/20
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 17人	(回答者数)	15人
○従業者評価実施期間	2024/12/2		2024/12/13
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4人	(回答者数)	4人
○事業者向け自己評価表作成日	2024/12/2		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っている。	支援中来所した保護者の方と話しながら最近の様子や、他の療育施設での様子など情報共有をしている。保護者が気になる事があれば都度相談に乗りながら、必要な時にはアドバイスをを行っている。フィードバックに来られない保護者の方には別紙を用意してその日の取り組みの共有を行っている。	保護者の方と直接話をする方が子どもたちの様子が伝わりやすいため、できるだけ支援中保護者の方に来てもらえる機会を増やす。
2	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	アセスメントシートを使い保護者のニーズを聞くと共に、苦手な事だけでなく、その子の好きな物や得意な事を聞き取り、得意な事も伸ばしていけるよう、児童発達支援計画に取り入れている。	子どもたちの通う幼稚園、保育園との情報共有、連携を密に行える様にする。
3	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われている。	月2回小学校就学前の子どもたち向けに集団での活動を開始した。また子どもの状況に応じて2人組での支援を行ったり、活動の1項目お友だちとの関わりを持てる時間を設けている。	年長以外の年中、年少の子どもたちを対象にした集団活動を取り入れる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族等の参加出来る研修、家族同士で関わる機会等保護者向けの取り組みが少ない。	働いている保護者の方も多く家族同士で関わる機会が取れない。また家族同士の交流を望まない保護者の方もいる。	長期休み期間でのイベント等、気軽に保護者同士が交流できる機会を設ける。
2	保育所、認定子ども園との連携はあるが、就学移行の際の小学校との連携や市の療育センターとの情報共有の機会が少ない。	開所からまだ1年しか経過しておらず、卒園児が出ていないことで小学校との連携をとっていなかった。就学移行に向けて小学校の情報が少ない。	来年度から小学生になる子どもの保護者の方から支援級と普通級について相談を受ける機会もあり、今後は小学校や療育センターとの情報交換を行いながら、就学移行の相談に乗れるようにする。
3	障害の特性に合わせた環境構成については行っているが、バリアフリー化がされていない。	現在通っている子ども、保護者共にバリアフリーを必要としている利用者がいないため、段差や手すりなど特に意識して改良していない。	現在は身体に障害のある子どもや特別配慮する利用者がいないためバリアフリーの必要が無いが、必要に応じて段差を無くす配慮をしたり、手すりを設けたりする。また、支援に集中しやすい環境作りを意識する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	学校法人峰谷学園ハッピーテラスキッズ大津ルームぎんなんラボ					公表日	2024年 12月 23日		
						利用児童数	17人	回収数	15人
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15人						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15人						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13人	1人	1人				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13人	1人	1人		外靴のスペースを裸足で歩くのは清潔とは言えないです。	基本は部屋にいるため裸足または靴下で支援を行っていますが、職員室まで歩く際外靴の道を通ることもあるため、気になる方には上靴を持って来ていただくようにします。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15人				子どもの好きな物を聞いてくれて毎回新しいパラエティ豊かな内容にしてください。	今後も継続して支援を考えて行っていきます。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15人				子どもが興味を持つことでスムーズに支援を受けられ、「やらされている」感なく楽しく取り組んでいます。「今日ハッピーテラスある?」と沢山通いたい様子です。	子どもたちにずっと通いたいと言ってもらえるように今後も支援を続けていきたいと思っています。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15人						
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14人	1人			園とも積極的に連携を取っていただけ、双方から現状を伝えてもらえる事がとても安心できます。	園との連携を密に行い、本人支援だけでなく家族の相談にのれる様にしていきます。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15人						
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13人	1人		1人		まだ通い始めたばかりで分かりません。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12人	1人	2人				
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15人						
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15人						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6人	2人	5人	2人	まだ分かりません。	保護者の需要に応じて、家族参加の研修会や情報提供の機会を設けていきたいと思っています。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていますか。	15人				終了時に毎回お話しができるので安心して通えます。	引き続き、来所時には保護者の方と子どもの成長や様子を話せる時間を作り、情報の共有をしていきたいと思っています。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13人	1人		1人	見学に行った際にお話を聞いてもらっています。支援を見ているときに、日々の家で出来る物や、相談に乗ってもらっています。		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15人						
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3人	5人	5人	2人				

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12人	2人		1人	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14人			1人	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10人	2人	1人	2人	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14人			1人	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10人	2人	1人	2人	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11人	2人		2人	3月に避難訓練実施予定です。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13人			2人	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9人	2人		4人	現在までに報告するような事故は発生していません。怪我、体調不良等、普段と違う様子が見られた場合には、保護者、幼稚園共に速やかに連絡をしています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15人				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15人				<ul style="list-style-type: none"> ・すごく楽しみにしている様子が毎日毎日「今日はラボある？」と聞いてきます。「あるよ」と返事すると「やったー！」と大喜びします。 ・「今日はラボの日？」とラボに通うことを楽しみにしています。 ・とっても楽しみにしています！いつも楽しい支援をありがとうございます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15人				

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	ハッピーテラスキッズ大津ルーム ぎんなんラボ					公表日	2024年 12月23日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	✓				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	✓				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		✓		現在はバリアフリーを必要としている利用者がいないためバリアフリーにはしていないが必要に応じてバリアフリーを取り入れるようにする。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓		パーティション等を使用し、個別のスペースや広いスペース等の環境づくりをしている		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	✓		職員間での打ち合わせ等、密に話しができるような事務所環境を設定している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		毎回または適時、保護者との関わりを持つことを心がけている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		社員間チャット等を利用して、業務連絡をスムーズにできるようにしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	✓				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	✓				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	✓				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		活動担当を満遍なく行えるようシフトの工夫をしている。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	✓		個々の発達状況を踏まえた上、個別または集団での療育プログラムを設定している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	✓			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓		幼児の通園している園への訪問、連絡等を行い、園との連携を取っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	✓			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		✓			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		✓			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	✓			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		通所前でも相談できる環境設定をしている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	✓		保護者の希望に応じて長期休暇にイベントを行い、保護者同士が関わる機会を作る。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	✓		Instagram等を活用し、活動内容等を発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	✓		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	✓		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓		
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	✓			